

Making Peace With Nature ビデオ和訳

Ivar Baste です。

本日は、UNEP の Making Peace with Nature 報告書の解説をさせていただくことを、大変嬉しく思っております。この報告書は、世界の 25 のアセスメント報告書を統合したものです。それらには、IPCC 評価報告書、IPBES（生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書）及び UNEP の GEO（地球環境概観）が含まれておりますが、それらによれば 1972 年のストックホルム国連人間環境会議以降、世界の環境問題・チャレンジは増加の一途にありますし、それに加え環境緊急事態が発生しています。

国連事務総長が述べておられるように、世界は、自然環境との意味もない自殺的な戦争を停止する必要があります。このためには、「自然環境を変化させる」現状から、「自然環境との関係を変化する」ことに移行することが必要なのです。

スライド：

この図の左側にあるように、過去 50 年の間に、世界の貿易は 10 倍増加し、世界の経済は 5 倍に、世界人口は倍に、世界の平均的な裕福さも倍となった。しかしその一方、約 13 億人が貧困層にとどまり、7 億人は飢餓に直面している。天然資源の採取により世界の人間開発は加速されたが、4 分の 3 の土地と、3 分の 2 の海洋が人間活動による影響を受けている。今日、開発に関する不平等さと、資源への依存性が増大するにつれて、持続可能な福祉の実現のための地球の有限な能力は消滅してしまうだろう。環境悪化の影響は、貧者と弱者に最も深刻となり、今日の若者たちや将来世代にはさらに重大となろう。地球温暖化は進行しており、海洋環境は悪化し、化学物質や廃棄物は合意されている限界を超えている。

スライド：

国際社会は、科学に基づいてこれらの環境上の限界を設定するようになったが、概して、その限界を達成することには失敗している。この図は、2 つの評価報告を見ると、ごく一部のターゲットだけが達成されたことが青い線で示されているが、すべてのターゲットが

達成された例がないことを示している。世界の 800 万の動・植物種のうち、100 万種が絶滅の危機に瀕している。

スライド：

世界は、パリ協定の達成のためのコースに乗っていない。現在の対策の状況では、2100 年までに最低でも 3℃の温度上昇が起こるであろう。UNEP の排出ギャップ報告書によれば、図に示されているように、1.5℃目標を達成するためには、次の 10 年間の対策が緊要であり、炭酸ガスのネット排出を 2030 年までに 2010 年対比で少なくとも 45%削減する必要があり、2050 年までにはゼロとする必要がある。2℃目標を達成するためには、1.5℃目標の場合よりは急峻でないとしても、排出削減を強力に進める必要がある。

スライド：

環境の悪化は、持続可能な開発の実現に対して脅威となっており、実際に、この図の上段の福利厚生（WELL-BEING）リングに示されている人間開発の目標達成は、中央のリングの生産・消費にかかわる SDGs の目標達成の可否に依存しているが、それらは、下段の自然環境にかかわる目標に基礎を置いているものである。

スライド：

環境の緊急事態は複雑に絡み合っており、社会と経済に被害を与えており、全世界では、土地の劣化は 32 億人への脅威となっているし、汚染は年間 9 百万人の時期尚早死亡を引き起こしている。

スライド：

したがって、我々は持続可能な人間の福祉をサポートする地球の能力を回復し、そのような能力に適応していかなければならない。図の右側に示されているように、開発からようやく獲得されたものを浪費することなく、また、貧しい国家や人々の良い生活の質を得たいとする正当な意欲を尊重しつつ、国際的な合意を守りながら協働して挑戦していく必要がある。持続可能な経済と金融システム、健康的で栄養価の高い食料ときれいな水とエネルギー、安全な都市と居住地での健康的な生活および福利厚生といったシステムを、人々

のニーズに適合したものに転換していく必要があり、その際、地球の健全さを維持することにより、社会や都市と人々すべてに機会を与え続けることが必要である。

スライド：

すべてのアクターがそれぞれの役割を持っている。政府は全体をリードする役割を持ち、経済、社会システムや国際機関はそれぞれの協働の努力を推進し、資金、金融システム、直接投資や民間機関はイノベーションを推進し、非政府組織は意識の高揚を、個々人、家庭、市民団体、若者たち、原住民団体などすべてが種々の理論を実践に移す役割を持つ。最後に科学および教育団体は、我々の知識を改善する役割を持つ。

この報告書は、人類の知識、独創性と協働により、社会と経済を構造変換し、共有の持続可能な社会を作り出せることを確信する、と結んでいる。

(翻訳協力：平石尹彦)